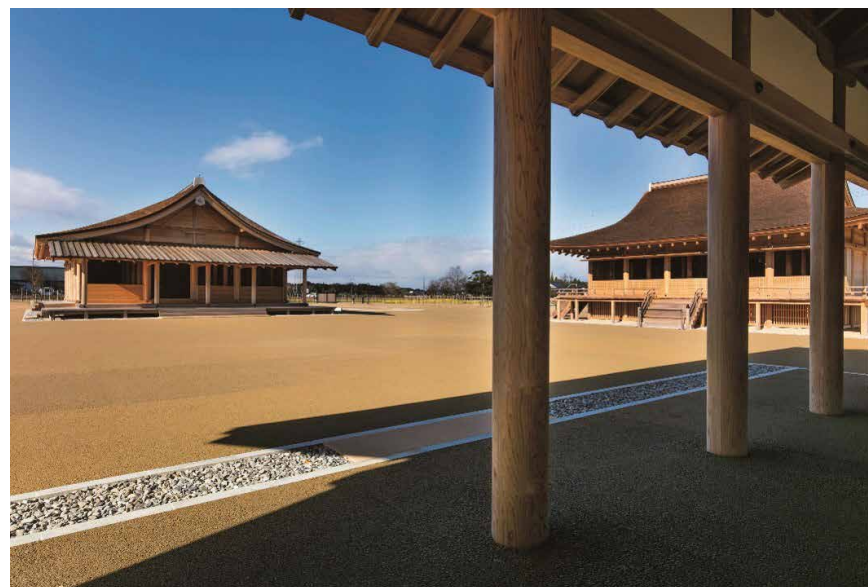


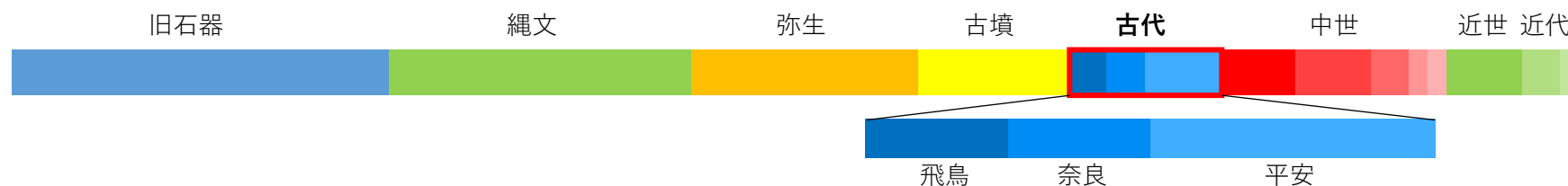
明和町の古代

古墳時代が終わると、日本に仏教が伝わり律令国家となりました。飛鳥時代から奈良時代、平安時代にかけての時期である古代では明和町は多気郡に属していました。明和町がある多気郡と度会郡、飯野郡は神三郡と呼ばれ、伊勢神宮の神領でした。

古代の明和町の中央部は多気郷と呼ばれ、国の機関である斎宮がありました。南部の地域は有爾郷と呼ばれ、伊勢神宮や斎宮で使われる素焼きの土器（土師器）が作られていました。町内の水池土器製作遺跡や北野遺跡、などからは土師器を焼いた土師器焼成坑が見つかり、作られた土器から有爾郷と斎宮、伊勢神宮との繋がりが伺えます。



さいくう平安の杜



キーワード：神三郡、斎宮、伊勢神宮、有爾郷